

安全・快適・持続可能な文京シビックセンターへ

文京シビックセンター改修基本計画（平成29年策定、令和8年改定）概要版

計画期間 2018年度～2032年度



令和8年3月 文京区

この概要版は、生成AIを活用して作成しました。

まず知っていただきたいこと

この計画を、1分で

15年間

2018年度から2032年度までを
3期に分けて計画的に改修

約265億円

改修計画期間における概算工事費
(税抜き)

閉庁せず実施

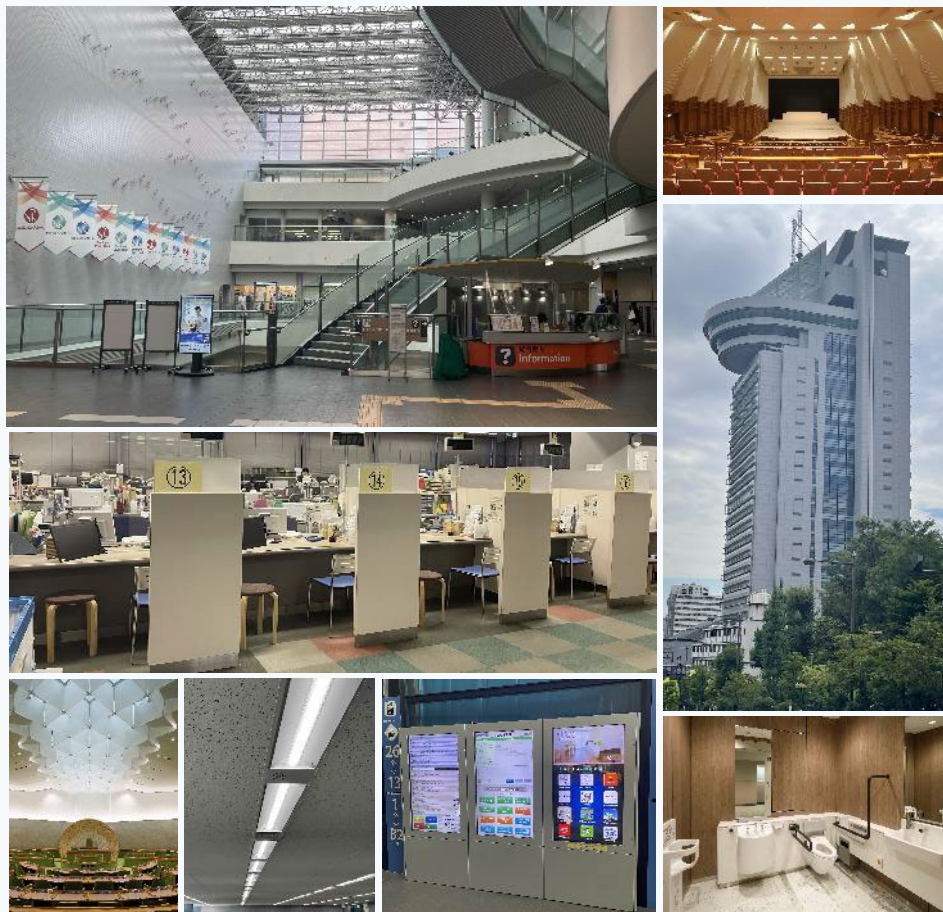
施設ごとの休業・仮移転や
夜間工事を組み合わせて進行

目的

文京シビックセンターの機能維持と更なる向上を図ることで、将来にわたり、より充実した区民サービスの提供を実現していくとともに、防災拠点として区民の安全・安心を確保していく。

ポイント：工事費は概算で、実施内容・時期は社会情勢や他施策との調整により決定します

なぜ、いま改修するの？



区民サービスと防災を支える複合施設

建物・設備の経年

庁舎棟は1994年、ホール棟は1999年にしゅん工。設備更新や大規模改修が必要な時期です。

社会・区民ニーズの変化

防災、バリアフリー、デジタル化、省エネなど、公共施設に求められる役割が広がっています。

計画の見直し

資材価格・人件費の上昇や工事環境の変化を踏まえ、期間・工法・優先度を見直しました（H29策定、R 8改定）。

計画期間

2期 10年間



3期 15年間

概算経費 (税抜き)

約174億円



約265億円

工事内容の見直し

基幹設備改修を優先
工事費の平準化
昼間工事へ移行

5つの視点で、未来につなぐ

1 防災

防災拠点の機能向上

2 環境

省エネ・CO₂削減

3 利用

ユニバーサルデザイン

4 行政

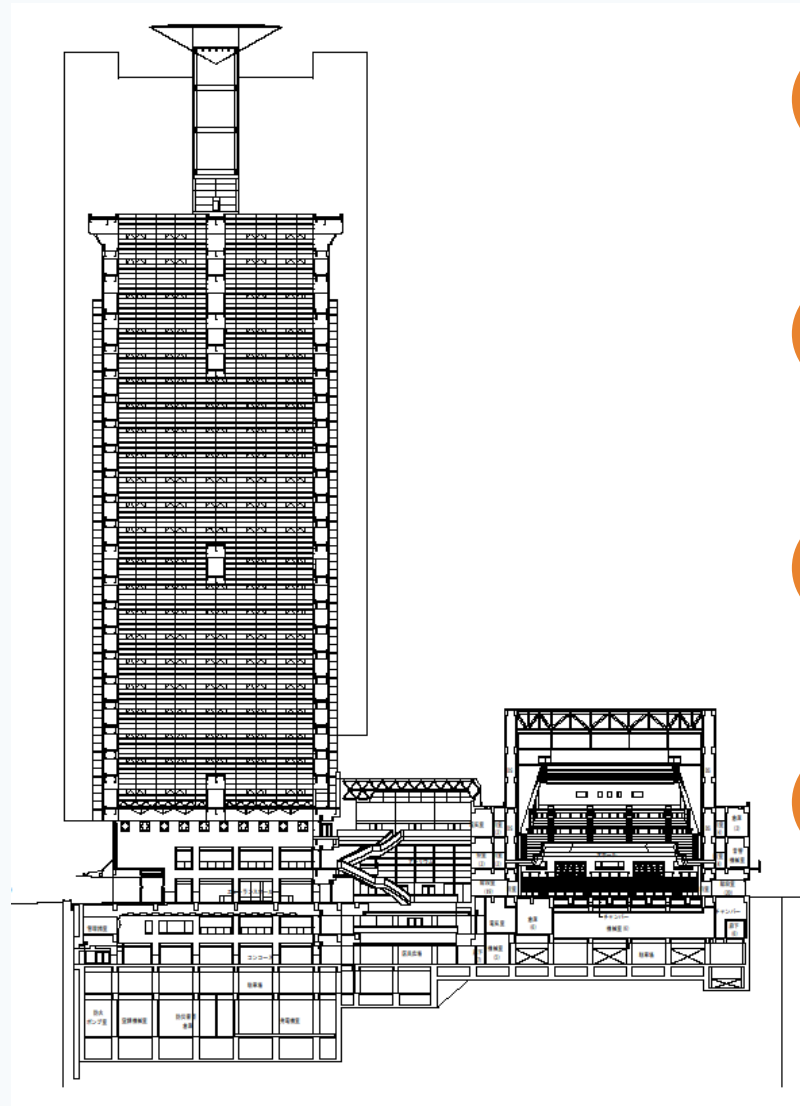
変化に柔軟な区民サービス

5 保全

建物の健全性と費用縮減

視点1

災害時も、区民を支える拠点に



1 非常用電源

停電時でも連続運転を3日から7日へ拡充済み

2 揺れへの備え

天井・設備・エレベーターの耐震性を向上

3 浸水への備え

止水板や換気風洞の防水措置を実施

4 帰宅困難者

低層階の大きな部屋を一時滞在に活用

視点2

環境にやさしく、効率のよい建物へ

LED・センサー

照明のLED化、照度・人感センサーで無駄を減らす

高効率設備

空調・給排水・電気設備を更新時に高効率型へ

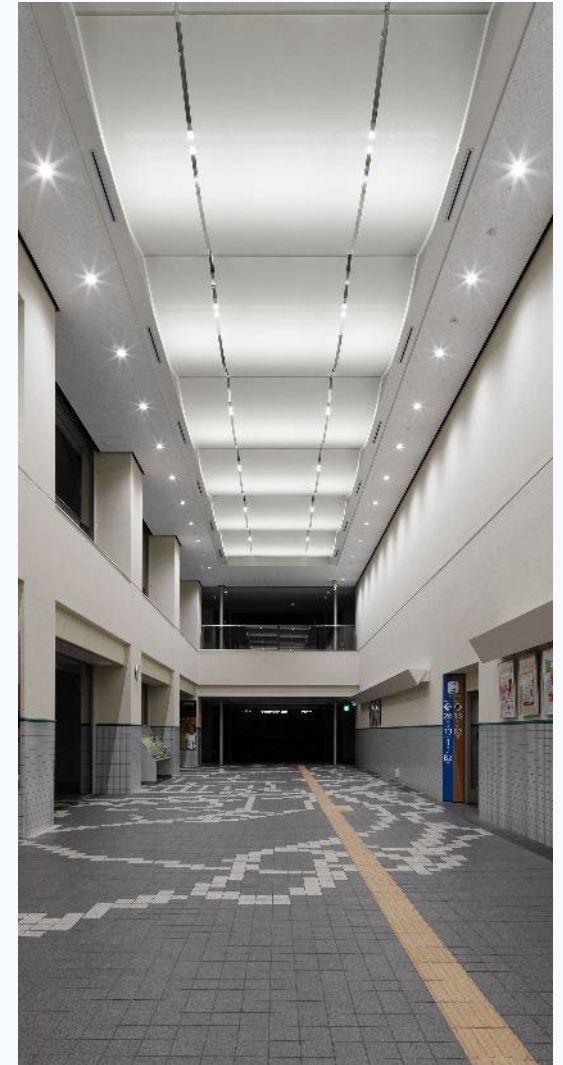
エネルギー管理

BEMS(※)などの導入を将来工事として検討

将来の再エネ

ペロブスカイト太陽電池の導入可能性を検討

※ BEMS・太陽光発電は2033年度以降の将来工事として位置づけ



誰にとっても、分かりやすく使いやすく



案内

英語併記・ピクトグラム・デジタルサイネージ

バリアフリー

手すり、段差解消、利用者の意見を踏まえ適時対応

トイレ

洋式化、温水洗浄便座、ベビーベッド、介助用ベッドなど

エレベーター

更新時に運行管理を改善し、待ち時間の低減を図る

窓口・DX

プライバシーに配慮した窓口、書かない窓口などを推進

3つの期間に分けて進めます



5年ごとに工事内容を検証し、進捗や社会情勢に応じて計画を見直します。

概算工事費は約265億円（税抜き）

概算額のため、今後の設計・社会情勢等により変わる場合があります

第1期



単位：百万円

8,809

第2期



8,672

第3期



9,024

費用を抑える考え方

規格品や標準品の採用、機器の長寿命化、低ランニングコスト化、メンテナンス性、工事年度の分散により、費用の縮減と平準化を図ります。

総合計 26,505

(約265.05億円)

ご不便を抑えながら、閉庁せずに進めます

1

施設ごと

必要に応じて休業・仮移転



2

フロアごと

執務フロアは原則仮移転



3

時間を分ける

支障がある工事は夜間対応



4

お知らせ

利用制限等は分かりやすく案内

安全を最優先に、区民サービスを続けながら改修します

詳細な工事時期や施設の利用変更は、決まり次第、区ホームページなどでお知らせします。